

臨時稲作管理速報

令和4年7月28日

いもち病発生

- ・川崎町内において、いもち病発生を確認しました（下記写真参照）



- ・7月の高温と降雨によりいもち病に**大変感染し易い環境**になっております。
- ・葉いもち病から穂いもち病に移行して収量、品質の低下が懸念されます。
- ・水田を見回り圃場内にもいもち病が発生していないか確認をして、いもち病が発生していたら直ちに薬剤散布をしてください。
- ・発病が確認されたら早急に**ブラシン粉剤（散布回数は2回まで）・ビーム粉剤（散布回数は3回まで）**等での防除の徹底を図ってください。
- ・葉いもち病に罹患したらブラシン粉剤を穂が出る寸前に散布すると穂イモチには効果的です。
- ・発生していなくても罹患する可能性がある場合はコラトップ粒剤（出穂5日前まで）若しくは粉剤等での予防散布を行ってください。

カメムシ防除

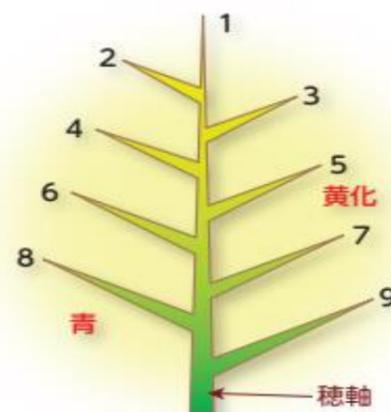
- ・ 斑点米の原因となるカメムシは本年も多発しております。
- ・ カメムシは水田周辺の雑草地、畦畔に生息しており、ホタルイ、ヒエなどの水田雑草にも生息しています。
- ・ 特にイネ科雑草の穂を好むため雑草の出穂前に刈り取る事が重要になります。

対策

- ・ 出穂 10 日前までに水田周辺の草刈りを終了する。
- ・ 遅くなると水田内にカメムシを追い込んでしまいます。
- ・ 出穂期以降の薬剤防除は穂揃期とその後 7～10 日後の二回防除が効果的です。
- ・ 出穂後やむを得ず水田周辺の雑草等を刈り取る場合は刈り取り後直ちに水田に薬剤散布を実施しましょう。

適期刈り取り

品種名	出穂期後の積算気温	出穂期後の日数
ひとめぼれ	940～1,100℃	42～50日
ササニシキ	960～1,170℃	43～53日
コシヒカリ	1,000～1,150℃	45～53日
つや姫	1,000～1,150℃	45～53日
やまのしずく	920～1,080℃	40～48日
まなむすめ	940～1,150℃	42～52日



●刈取り適期始めの枝梗の黄化程度
出穂期後の積算気温と日数からみた刈取り適期の目安

1. 出穂期とは稲穂が圃場全体において8割程度出穂した時点をさします。
2. 積算温度とは1日の最高気温と最低気温を足して2で割った数字の合計になります。
(例 最高気温 30℃、最低気温 20℃なら 25℃)
3. 刈り取り時期が遅れると品質の低下を招き、食味値も悪くなるので適期に刈り取りを行なってください。

川崎町農作物防除協議会

(大河原農業改良普及センター・川崎町・農業委員会・JAみやぎ仙南川崎・NOSAI 県南支所)

お問い合わせ先
JA みやぎ仙南川崎地区 電話 84-2222
(佐藤・阿部・佐々木)
川崎町農林課 電話 84-2304
(佐藤・丹野・加藤)